

子ども・若者の声をきく ー 青少年活動センターの実践からー

(公財) 京都市ユースサービス協会
事業統括 竹久 輝顕

Create the Future

ミライ、≠ ツクル。

京都市ユースサービス協会は、

若者とともに未来を描き、

若者が生きやすい社会をつくれます。

ユースサービスでは、若者をどういう存在として捉えているか



「若者」 = 「子ども」と「大人」の間の移行期にある

- 主体としての若者
- 発達過程としての若者（思春期・青年期）
- 社会的な存在としての若者
 - 社会的な移行に伴う社会の問題・課題に対して、課題に対応すること / 社会の側を変えていくこと の両面

京都市ユースサービス協会の取組



「若者の場づくりと多様な機会づくり」

- 過ごす・集まる・活動することができる「場」
- ボランティア活動・交流プログラム等の参加できる「場」
- やりたいを実現するためのサポートや、日常の雑談から相談まで気軽に話せる「ユースワーカー」

⇒ 「場」「機会」「関係性」に関わる



京都市ユースサービス協会にける主な取組



- 本体事業（主に自主事業）
 - 校内居場所カフェ、SRHRの取組、ワーカー養成、各種研究開発ほか
 - シティズンシップ形成、ユースカウンスル京都との協働ほか
 - ユースショートステイ事業「おりおりのいえ」、子ども若者ケアラーほか
- 青少年活動センター：市内7か所にある13～30歳の余暇活動拠点
- 子ども・若者総合相談窓口：39歳までとその関係者の相談窓口

京都市青少年活動センターとは…



- ユースセンター設置に係る法令はない（自治体設置や民設）
 - 一方で、近年全国でユースセンターができてきており、京都は先進地
- 京都市が設置、「京都市青少年活動センター**条例**」に規定
担当課：子ども若者はぐくみ局 子ども若者未来部 育成推進課
- 指定管理にて当協会が現在運営（4年に1回公募）
- **京都市はぐくみプラン**のもと運営

青少年活動センター＝ユースセンターの存在意義



若者が余暇を過ごす 1つの選択肢 として （自由な場と機会の保障）
若者が社会の中で生きていくための一助として

- 家や学校・職場以外の「場」（いわゆるサードプレイス）
- 自分がやりたいことができる / やらない・保留も選択できる「場」
- 居ることを問われない / 評価されない「場」
- 他者や仲間と出会う「機会」
- モノ・コトと出会う「機会」
- 価値観と出会う「機会」



京都市青少年活動センターの機能とテーマ



共通機能：居場所・活動・相談（市の仕様書では居場所・育成・相談）

- 中央：総合相談／社会参加促進
- 北：自然・環境、地域・まちづくり（生活）
- 東山：創造表現活動
- 山科：地域活動・まちづくり
- 下京：スポーツ・レクリエーション
- 南：若者の居場所づくり
- 伏見：多文化共生



センターの立地

公共施設

中学生～30歳
自主活動拠点

- ・スタジオ
 - ・会議室
 - ・料理室
 - ・スポーツルーム
 - ・ロビー
- and more...

11行政区のうちの
7か所（西側にな
い）



京都市青少年活動センター 一覧（統計数値は2024年度分）



センター	延べ床面積	年間利用者数	相談件数・回数
中央	1,870m ²	84,598人	137件・273回
北	958m ²	53,799人	221件・413回
東山	1,038m ²	77,745人	171件・213回
山科	741m ²	55,445人	143件・225回
下京	3,078m ²	108,647人	188件・232回
南	847m ²	48,898人	110件・170回
伏見	1,451m ²	92,877人	81件・121回
合計	9,983m ²	522,009人	1051件・1647回

活動できる／目的なく居られる／情報・他者に出会える場



ロビーに多様な仕掛けを



- ロビー（フリースペース）を使って交流の場をつくったり、掲示板を用いた企画をしたり、若者が企画をしたり…
- 1人で／誰かと過ごす 開かれた場での取組



参画の場・機会づくり



- 「若者の声」を大切なものとして
声にならない声も大切に / 声をあげられる機会 / 多様な程度感の参加・参画 / 声を集める・届けるも含めて / 声が正当に扱われるように / 代表と代理の意味と限界を理解しておく（どこまでも充分ではないけど必要）
- ユースセンターの中で起こっている参加・参画を大切に
 - 参画プログラムだけではなく、日常の中に機会をつくられているかが重要
- + 若者・社会の関係性にかかわる事業
 - 社会参加促進事業（シティズンシップ形成事業等）
 - ローカルユースカウンスルの運営協力



各種活動にかかわるボランティア



各種事業にボランティアとして若者が参加（2024年度 837名登録）

- * 大学生年代を中心とする10代・20代
 - * ボランティアも対象者
 - * 多様な活動（学習支援・カフェ運営・清掃・地域活動）
 - * 担い手になることを選べること
- 個人の成長のきっかけ
 - 社会とのつながりを実感できる機会
 - パートナーとして



各事業所の取組① 中央・北



@中央青少年活動センター
交流プログラムCONTACT
「なかせいカフェ」



@北青少年活動センター
米 come CLUB (収穫)



ごぶさた



各事業所の取組② 東山・山科



@東山青少年活動センター 演劇ビギナーズユニット



障がいのある
若者の表現事業
「からだではなそう」



@山科青少年活動センター 自主活動支援事業「鯉のぼりづくり」



べる活
看板づくり



各事業所の取組③下京・南

@下京青少年活動センター
夏の1DAYボランティア
サマーナイトフェスティバル



プラントゥ
ゴミわく



@南青少年活動センター
センター利用者会「ロビー空間づくり」



ロビープログラム
「クラフトの会」



各事業所の取組④伏見・7センター協同事業



@伏見青少年活動センター

TABUNKAひろば



**地域連携事業
カフェおせっかい**



@センター協同事業

若者文化発信事業「ユスカル！」



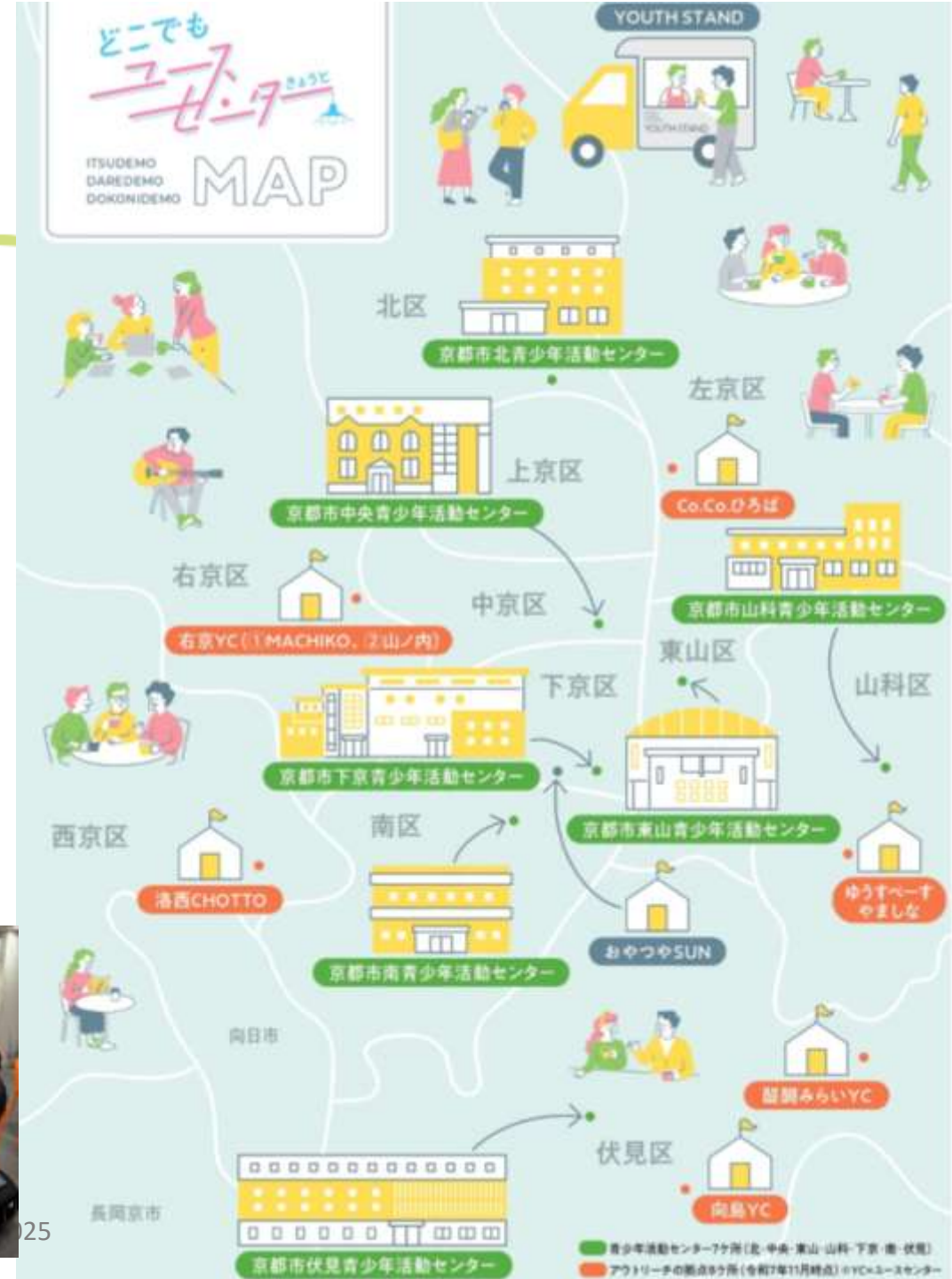
**ユース
シンポジウム**



センター機能の持ち出し

センターのない地域で、その地域の関係者とともに新たな場づくりに取り組んでいます

- ・ 向島：向島ユースセンター
- ・ 洛西：洛西CHOTTO
- ・ 右京：右京ユースセンター（山ノ内／MACHIKO）
- ・ 醍醐：醍醐みらいユースセンター
- ・ 山科：ゆうすぺーすやましな
- ・ 左京：Co.Co.ひろば
- ・ 全域：YOUTH STAND ⇒ 移動型ユースセンター



若者の声をきく取組？



- どちらかというと、若者の声を聴くための取組よりは、日常の中にどれだけ埋め込まれているかを大切にしたい
- もちろんワークショップをするのもイベントをするのもいいが、
ともに日常の声を取り入れる仕組みも大切にする
- 若者が自由に過ごせる場所 ⇒ 若者の声を取り入れる必要
- だからと言って無理に聞き出せない
声にならない声もある ⇒ 関心を持ってかかわることから

若者の声をきく取組「センター魅力度向上」の取組

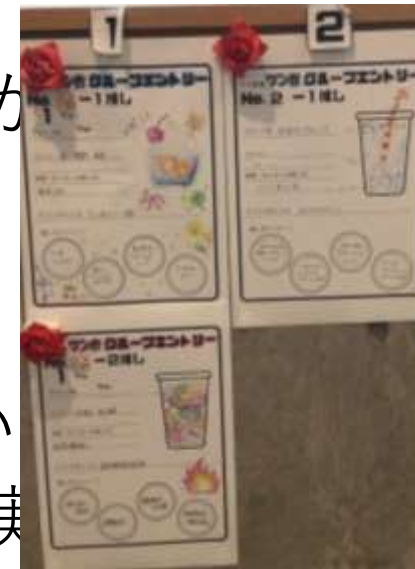


- 全青少年活動センターで夏～冬にかけて実施
- センターの魅力度向上のための取組に対して、利用者である青少年がアイディアを出せるように各センターで企画
- 利用する若者自身の意見をきき、物品や調度品を調達し反映する
- 中央青少年活動センターでは、各所よりよくするための案を書ける付箋配置し、ワークショップでまとめた
- 日常の利用者の声も含めて取り扱えように工夫した



若者の声をきく取組「ワン院選ワン吉」

- 中央青少年活動センターで7月上旬～中旬に実施
- 参院選に合わせて、中央センター「カフェ・ド・まんなか」出すドリンクを若者が考案し、投票にて決める企画
- 日常の中に若者の声が反映される機会づくりとして実施
- 特に高校3年生の利用者は、選挙権がある者もそうでない者もあり、違う形での等しく参加できる選挙企画として実施
- 個人・グループエントリー、各2組が当選、8/18に投票
- 開票日には発案メンバーも立ち会い、開票作業を実施
- 「次は企画から参加したい」との声も



若者の声をきく取組「センター利用研究会」



- 南青少年活動センターで今年度から実施
- 月1回ロビーにて利用研究会を実施
- センターを利用する中学生～大学生が参加
- 「利用ルール」「ほしいもの」「ロビーづくり」等
- 当日センターにいる人に声をかけ実施
- 日常のちょっとしたところにそれぞれのアイディアが取り入れられていく過程に立ち会えることを大切にしている
- 「天井の色を塗りたい」⇒ワークショップ実施
- 6月参加した中学生が 11月参加「俺の意見が通って



若者の声をきく取組？



- どちらかというと、若者の声を聴くための取組よりは、日常の中にどれだけ埋め込まれているかを大切にしたい
- もちろんワークショップをするのもイベントをするのもいいが、
ともに日常の声を取り入れる仕組みも大切にする
- 若者が自由に過ごせる場所 ⇒ 若者の声を取り入れる必要
- だからと言って無理に聞き出せない
声にならない声もある ⇒ 関心を持ってかかわることから

若者の声をきくための課題



- 日常の中にどれだけ埋め込まれているか
⇒ いかに仕組化できているか
- 声にならない声にどう付き合っていくか
⇒ 関心を持ってかかわっていく
- 言語表現だけがすべてではない
⇒ 多様な表現をどう受け取るか
- 迎合ではないので対話が必要
⇒ 自分たちはどう考えるか、それはなぜかが問われる
- 個人の思いと、集団の思いのギャップなどの取り扱い